

地球温暖化に伴う気候変化を踏まえた今後のダムのあり方

北部ダム事務所 調査設計第一課 ◎安里 司
○河口 幸広

1. 目的

沖縄におけるダムは、本土復帰以来、建設が進み、沖縄の発展、沖縄らしい水環境づくりに大いに貢献してきており、引き続きその機能を十分発揮していくことが求められる。一方、気候変動に関する報告書では、CO₂等の温室効果ガスの削減を中心とした温暖化の「緩和策」とともに温暖化に伴う様々な影響への「適応策」を講じていくことが重要であるとの指摘がある。沖縄においても、温暖化の影響であると思われる気候変化の兆候が観測されている。

そこで、将来の沖縄における地球温暖化に伴う気候変化による影響と課題についての整理・対応について検討するため、有識者による「懇談会」を設置した。ここでは、懇談会において提言された、地球温暖化に伴う気候変化に対する沖縄の水に関する課題、今後の沖縄におけるダムのあり方や具体的な取り組みについて報告するものとする。

2. 内容

1. 沖縄における現状認識
地理的特性、自然特性、社会特性、治水、水資源・水利用、河川環境、関連施設等の維持管理
2. 今後、沖縄で予測される気候変化について
3. 気候変化に伴う治水・利水・環境への影響
4. 今後の「適応策」の目標と方向性
5. 気候変化に対する取り組み
 - ①既存施設を活用した対策
 - ②ソフト対策
 - ③地域及び関係機関との連携及び働きかけ
 - ④総合的で柔軟なマネジメントの推進
 - ⑤既存施設の安全性の維持・向上及び調寿命化
 - ⑥温暖化緩和に向けた対策
6. ロードマップ
取り組み実施のスケジュール(案)

3. 結論

「提言書」でとりまとめたダムにおける温暖化に伴う様々な影響への「適応策」の具体化に向け取り組むにあたっては、気候変化やその影響の予測が依然として難しいこと、また、大きな予測幅を持っていることを認識する必要がある。そのため、取り組むにあたっては、沖縄における今後の気候変化の状況や社会変化を十分に把握しながら進め、適宜、その実施状況とその効果を検証しつつ、柔軟にかつ継続的に進めることが不可欠である。